

一隅を照らす

中村哲医師がアフガンで灯した明かり¹

村上優

ペシャワール会の村上です。

中村医師も私も精神科医で、学生時代にはフランクルの著述に出会っています。私は『夜と霧』や『死と愛』を愛読していましたが、中村もそうだったと思います。二人でフランクルについて議論した記憶はないですが、中村医師も、困難な時に、希望の灯りを照らしてくれる「精神の自由」について述べたフランクルの言葉に励まされていたと思います。

本日のタイトル「一隅を照らす」は、中村が最も好んだ言葉の一つです。

彼は40年近く先頭に立って前線で働いてきましたが、発端は1978年にテリイチミール（7707m 右は当時の写真）登山隊付の医師として現地を訪れたことです。当時の雪線は3500mでしたが、今では4500mでも雪があるかないかです。1990年代には氷河崩壊のニュースが聞かれるようになりました。アフガニスタンでは8割が農民ですが、雪がなくなれば川の水が涸れ農業ができなくなります。また国土の8割が山地で、山で隔てられているので文化の割拠性

